エンパワーするNGO YWCA
京都YWCA
5
2013

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

福島から親子を迎えて、京都の春を楽しんでもらいました。

３月28日から４月１日まで、京都YWCA被災者支援委員会による春のリフレッシュプログラムとして、今回は福島から６組の親子をお迎えしました。子どもたち９人は、京都の子どもたちと一緒に宇治のYMCAリトリートセンターでキャンプを楽しみました。３月30日にはおかあさんたちと会員を中心に約30名が参加してランチ交流会が行われました。子どもたちがキャンプの間にお母さんたちは日常から離れ、桜が美しい春の京都観光でそれぞれの時間を過ごしていただいたこともあり、京都到着直後に比べて　幾分リラックスした表情のように感じました。交流会は、カレーやデザートなどで食卓を共にしながら、率直に日頃の思いを話してくださいました。

〈お母さんたちの複雑な思い〉

私のテーブルの二人の方の話を紹介します。

「福島市に住み、地震・津波後数日は、貴重品を全部自家用車に積みガソリンを満タンにして放射能から逃げる準備をしていた。避難指示を待っていたが一向に出ないままだった。『ああ、見捨てられた』と感じた。そして、４月になり、学校が普通に始まるという知らせに、親としては不安はあるものの従うことにした。夏休みを機に、避難する人もいた。」

そして、現在は、「除染は進んでいない。地面の土を削って、自宅の庭に置いているが、仮のそのまた仮置き場といったものだ。また、情報の格差というものを感じる。保養についても、親が情報をよく得られる人とそうでない人では差がある。平等に情報がほしい。」「避難している人は大変だなあ。新しい所での人間関係をはじめ、精神的には辛いと思う。故郷に留まることより、もっと辛く、やりきれないのではないか」と語られました。「避難しない自分たちが責められているという気持ちを持つ」「同じ被害者なのにへだたりがあり、もう埋められないのではないかと思う」とも。「原発には、事故が起こるまで、関心がなかった。そもそも、この国には一番適さないものだったのになぜ？・・と思う。」

その他にも率直に語られたことを聞いて私たちは、その意味をそれぞれ噛みしめていました。最後に、このような事態が出会いの機会であることは、けっして幸せなことではないが、「この京都での保養で、出会えたことを感謝する。」という言葉をいただきました。福島原発から福島市は60キロであり、若狭の原発銀座から京都までも60キロです。このことを踏まえ、今後、3.11の経験を生かすことを考え続けなければいけないと感じています。

（弘中奈都子）

2013年度の私たちの取り組み

90 周年を迎えて、次の一歩を踏み出す

ミッション推進活動部門運営委員会　2013 年度会長　篠田　茜

今年度も、今回で 4 回目となる福島保養プログラムを 4 月 1 日に終えるところから始まりました。東日本大震災から 2 年が過ぎ、世間では地震や放射能事故が早くも風化しているような風潮にあります。しかしとくに子どもたちへの低線量被曝の影響がでるのはこれからであり、また保養はたとえ短くても心身ともに効果があると言われていることに鑑み、今年度もできる範囲で、福島保養プログラムは続けていきたいと考えています。

また今年度は、昨年までの「中長期ビジョンプロジェクト」を受けて、会館の大規模改修工事、新事業（サービス付き高齢者住宅と自立援助ホーム）、サマリア館でのふれあいの居場所食堂事業のそれぞれについて準備を進めていきます。定期会員集会では改修工事に伴うスリフトやバザーのありかたなどについての協議も行われました。

京都 YWCA が改修後ここで生活する人々や地域の人々に開かれた交流の場、ほっとできる居場所となるために、今年度はハード面、ソフト面で検討していきます。来年早目には改修工事が行われる予定です。改修後は活動のありかたも変わってくると思いますが、変化を見据えて、今年度の活動を行いたいと思います。

放課後の「子どもの居場所」事業の一環として行われた春休みの「キッズデイアウト」プログラムは好評で、連日多数の小学生が参加して、遊びや学びを楽しみました。今年度から小学生全体を対象にする子どもの居場所「ガジュマルの樹」がこれにつながり展開されることが期待されています。

また今年 2013 年は、京都 YWCA の設立から 90 年になる年です。9 月 28 日にはお祝い会を開催します。2013 年度から 2016 年度の 4 カ年計画がたてられ、まさに次の 100 周年に向けて新しい動きを始めるにふさわしい年だと言えるでしょう。新しいことを始めるときに困難は付き物です。多くの先輩たちが築いてこられた京都 YWCA を次の世代にも引き継いでいくことができるように、ともに力を合わせてしなやかにこの変化のときを歩んでいきましょう。

・京都YWCA90年の歩み・

・戦中の混乱期（1936 年～ 1945 年）

1936 年、それまで単科講習式であった教育部の事業を一本にまとめ家庭教育を主眼に置いた「京都女子学院」を設立しました。京都女子学院は前年度からの運動が功を奏し、京都府の私立学校令による認可を得た学校でした。また同年、ヘレン・ケラー女史を京都に迎え、YWCA が中心となり、他の団体と合同で講演会を実施しました。

1944 年には 9 年間小規模ながらも充実した内容の授業を行った京都女子学院が閉鎖され、さらに有職会員のための夏の休養所・比叡山休養所を閉鎖しました。そして戦争の混乱の中、多くの YWCA が軍などに会館を貸し出し、京都 YWCA も会館を京都府庁に貸し出すことになりました。

・戦後復興に向けて（1945 年～ 1950 年）

戦後の大変厳しい状況の中ではありましたが、建物が残った京都 YWCA は復興への道のりを歩み始めます。戦後は婦人相談所、児童相談所、児童図書館など市民のニーズを的確に捉えた事業が行われていきました。1950 年の特色あるプログラムのひとつには「服装ショウ」というものがありました。これは戦後の衣料品不足の中、米国から古着が送られてきていましたが、着こなしが難しいため、京都の女性に洋装についての心得を持ってもらおうと、YWCA 会員がモデルとなり様々な着こなしを披露しました。（編集部）

1949 年当時の YWCA 会館

新職員紹介

MIDORI HORIBE

今年度から、京都 YWCA の職員を務めさせていただくことになりました、堀部碧（ほりべみどり）です。

京都 YWCA では 2009 年末ごろからボランティア、会員としてさまざまな活動に参加してきました。在日外国人の電話相談を行う APT や、パレスチナ問題に取り組むブクラ、多文化共生をテーマとした小学生対象プログラムを開催するユースグループにおける活動などを通して、多様な人びとと出会い、学び、考え、成長することができたと思います。私にとって、京都 YWCA はまさに私自身の「エンパワメント」の場でした。

2011 年 9 月からは、約 1 年間、イギリスの大学院で紛争解決学を学びながら、イギリスの地域社会における平和運動に触れることができました。こうした経験を積んだ私の次のステップとして、自分自身がエンパワーされた場である京都 YWCA で、職員としてその活動に貢献できることを、とてもうれしく思います。

京都 YWCA でさまざまな活動をされている会員の皆さまや、京都 YWCA に訪れる多くの人たちと出会い、時間を共有しながら、職員として、人間として成長していけたらと思います。そして、皆さまと京都 YWCA という場を通して、ともに何かを成し遂げたり、時間や考えを共有したりする喜びを分かち合えることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

仲間とともに
新しい取り組みを!

YWCA ユース交流会 in 京都を実施して

3月23日、24日、全国のYWCAで活動する若者が集まる「ユース交流会」を京都YWCAで実施しました。全国のYWCAへ呼びかけた結果、福岡、神戸、広島、京都から総勢15名が参加しました。

交流会の1日目には、YWCAオリエンテーションとディベートをしました。YWCAで活動していても、YWCA全体のことはあまり知らない私達。YWCAの歴史や現状、組織運営などについて学びました。人の意見を聞き、それに答えるコミュニケーションの練習としてディベートを行いました。「YWCAで男性は会員になれるべきか」というテーマでディベートを行った際は、大切な論点がたくさん出されました。夕食後の交流はシニア会員も交えて深夜にまで及びました。

※改めて考えたYWCAの「C」の精神

2日目には、「モーニングサービス ― 自分と向き合う時間」、「シニア会員からのメッセージ」として、平野正牧師、熊本YWCA会員の俵恭子さんにお話頂きました。また同じユースの立場として、広島YWCAの大川祈さんからも彼女にとっての「C」(クリスチャン)の理解についてお話を頂きました。

私はYWCAで活動を始めた頃から、「YWCAがキリスト教を基盤とする」ということはどのような意味なのか腑に落ちていませんでした。その意味を自分の言葉で説明するにはまだ時間がかかりそうですが、YWCAがキリスト教を基盤にすることの意味を理解する種は得られたように思います。

※今後にむけて

最後に自身の所属するYWCAでやってみたいことを発表し、海外での食育活動や護身術講座、基地巡り、全国のYWCAユース訪問など、様々な計画が発表されました。このようなユース交流会を自分達のYWCAでやってみたい!という声も上がり、この交流会がとても刺激的な時間であったのだと思います。

今回の交流会は、全国にいる元気なユースたちと交流し、見える関係になることを目的としました。来年度以降もユース交流会が全国のYWCAを巡る形で開催でき、各地域YWCAでユース中心の新しい取り組みが始まったり、全国のユースで合同企画が出来ることを期待しています。

(伊原千晶)

~フクシマの放射能汚染とヒバクを考える~

3月9日(土)午後、内科医で、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西の振津(ふりつ)かつみさんをお迎えして、お話を伺いました。参加者の中には、近所に住む年金生活者の男性や、東京から家族と避難されてきた若いお父さん、関西避難者へさまざまな情報を提供する冊子を作っている女性など、いろいろな立場の方たちの姿がありました。

振津さんの話されたことで私が印象に残ったことをいくつか記します。

1. 「百人百様の被災」があり、当事者の気持ち(例えば避難する、しないなど)を尊重し、何をすべきか一緒に考えること。
2. 脱原発と支援は「両輪」で動くべきこと。
3. 原発事故による被災地の問題は山積みなのに情報が伝わってこない。その中で私たちは「忘れない!」「想像する!」こと。
4. 低線量被ばくの健康リスクについては「しきい値」がないということが科学的に証明されているのに、政府は無視し続けていること。
5. 国や東電の責任を明確にし、被ばくさせられた全ての被災者に「健康手帳」を交付すること。

◆国家補償として総合的援護が必要

チェルノブイリの現地では汚染地外での年2回の「保養」を学校教育のカリキュラムに取り入れており、また汚染地の子どもたちは年2回の甲状腺超音波検査を受けることになっているなど、被ばくの防護と健康管理の日常的取り組みについて、日本は学ぶべきことがたくさんあります。

振津さんは健康手帳による健康管理(無料健診など)や医療保障を実現し、事故処理作業者に「被ばく手帳」を交付すべきであること、それらは社会保障の枠組みでなく、国家補償として行うべきことを強調されました。

「核」という人類が「扱いきれないもの」を「扱ってはならなかった」という言葉とともに、「フクシマ」から教訓を学び、二度と繰り返さないために私たちがすべきこと、出来ることをすぐに行動に移していくよう、一人ひとりに求められていると改めて知る機会になりました。

(木戸さやか)

京都 YWCA の賛助員になって活動をお支えください。

京都 YWCA では女性・子ども・若者・多文化共生をキーワードに以下の事業を行っています。

◇◇

①外国人支援事業（多言語電話相談、日本語学習支援）
②子育て支援事業
③次世代育成（小学生対象プログラムや若者のリーダーシップ養成）
④東日本大震災被災者支援事業

◇◇

また、2014 年度後半より、児童養護施設等を退所した女子児童対象の自立支援事業をスタートさせる予定です。

賛助員となってこれら事業をお支えください。

賛助員の年会費は 5,000 円もしくは 10,000 円です。

隔月に機関紙と案内物をお送りします。

賛助会費またはご寄附は京都 YWCA 事務所まで、または以下の郵便振替口座にお振込みください。

郵便振替　01080-9-1566　一般財団法人京都 YWCA

小学生のお子さまをお持ちの保護者のみなさま

京都 YWCA 子どもの居場所「ガジュマルの樹」で、子どもたちに楽しい放課後を過ごしてもらいませんか？

学校の時間が終わり、保護者のみなさまが帰宅されるまで、子どもたちはどんな時間を過ごしていますか？　京都 YWCA には、小学校 1 年生から 6 年生まですべての子どもたちが放課後から夜まで安心して過ごすことができる居場所「ガジュマルの樹」があります。保護者のお迎えがあるまで、安全でおいしいおやつを食べ、宿題を済ませ、自由に楽しく時間を過ごすことができる場所です。お迎えが遅くなってしまう場合には、温かい食事を提供することもできます。

ガジュマルは、子どもの姿をした精霊が住み、幸福をもたらすと言われる樹。そして、さまざまな異なる生命体を、そのあるがままの姿形において包み込んで大地に根を張る生命の樹のシンボルとされています。京都 YWCA の子どもの居場所は、そんなガジュマルの樹のように、子どもたちが多様性や多文化を尊重しあいながらのびのびと過ごすことができる場所を目指しています。

対象者：小学 1 ～ 6 年生
開室日：毎週月・火・木曜日（祝祭日、クリスマス休み、年始等除く）
　　15:00 ～ 19:00　または　20:00 まで
利用料：19 時までの利用の場合 12,000 円／月（おやつ付）
　　20 時まで延長の際は 500 円／回（夕食付）

※利用料以外に、申込金 3,150 円（初回のみ）および年間登録費 2,000 円が必要です。詳細はお問い合わせください。

♪不定期に国際交流や多文化共生などの特別プログラムも実施♪
♪長期休みにも特別デイプログラムを企画しています♪

ご寄付ありがとうございました。

敬称略（2013 年 2 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日）

＊一般寄付
下村泰子、鍛冶富美子、宮武美知子、筒井奈都子、池上信子、平野冨希、篠田茜、上村兪巳子、神門佐千子、太田興、花岡正義、日本キリスト教団京都丸太町教会、日本キリスト教団京都御幸町教会、匿名、日本キリスト教団京都教会

各指定寄付

＊ピアノ募金
斉藤豊子

＊東日本大震災被災者支援
後藤キャサリン , 近藤あや

＊ミニホール・キッチン改装
新海恵子、片桐ユズル

＊親・子どもの育ち支援委員会
齋藤佳津子、親子育ち支援委員会有志、上田理恵子

＊ APT
樋口美咲、メンセンディーク マーサ、飯田奈美子、日本キリスト教団洛陽教会

＊国際委員会
小寺敬子、宮武美知子、筒井奈都子（国際交流 G へ）、小寺敬子（洛陽へ）

＊平和委員会
カフェフリーデン参加者有志、今井貴美江（ほーぽのぽのへ）、平和委員会有志

＊次世代育成
次世代育成プログラム委員会有志、俵恭子、大川祈

＊カフェ
カフェ委員会有志、宮武美知子

＊賛助員
小嶋清見、下村喜久子

ひざ専門　梅の木　鍼灸院
〒602-8018 京都市上京区御霊町（ごりょうちょう） 70 番地
【京都 YWCA 西隣（衣棚通り側）】
TEL：075－755－4756
Mail：umenoki.shinkyuu@gmail.com
梅の木鍼灸院　検索

3月・4月／理事会報告

●バザー実行委員会　＊2013年あじさいバザール：6/1（土）10:00-15:00
・入場料を徴収して、被災者支援活動への寄付とする。・ボランティア募集中
●被災者支援：春の福島親子リフレッシュプログラム終了（3/28-4/1）。
　＊2013年度も①福島キッズの保養プログラム、②被災地訪問プログラム、③在京避難者向けプログラム、④ボランティア養成を展開する。
●人事：堀部碧をフルタイム職員として雇用。（4/1付採用）
●会館部：同志社大学留学生8名入居（3月末）
●中長期ビジョンの策定を受けて、①サービス付き高齢者住宅事業準備チーム、②自立援助ホーム準備チーム、③ふれあいの居場所食堂事業準備チームを始動する。

KYOTO　YWCA　No.514
2013 年 5 月号（5 月 1 日発行）
発行人　上村兪巳子
発行所　一般財団法人京都 YWCA
　京都市上京区室町通出水上ル
電　話　(075) 431－0351　FAX (075) 431－0352
e-mail　office@kyoto.ywca.or.jp
URL　http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替　01080－9－1566
口座名義　(一財) 京都 YWCA
定　価　50 円